

全国小学生ハンド

堅守からの速攻で、男子の神森クラブが9年ぶり5度目の日本一を手にした。ハンドボールの第37回全国小学生大会最終日は4日、京都府京田辺市の田辺中央体育館で行われ、岩国レインボー・キッズとの決勝を28-19で制して頂点に立った。(1面参照)

神森クラブはこの日行われた準決勝で、T-SQUARE京都の試合終了間際のシュートを阻止して15-14で勝利。決勝では長身の相手エースを封じる作戦が的中し、速攻を展開して快勝した。

【男子】
▽準決勝
神森ク 15-14 T-SQUARE京都(京都)

▽決勝
神森ク 28(14-7)-19 岩国レインボー・キッズ(山口)

決勝 神森クラブ-岩国レインボー・キッズ 前半、シュートを決める神森クラブの東江琉希=京都府京田辺市・田辺中央体育館(スポーツイベント提供)



神森 堅守速攻で日本一

足動かし相手エース封じ

足を動かして守り、相手エースを複数の選手で挟んで自由に動けなくする。ハンドボールの基本、堅守からの速攻で神森クラブが日本一をつかんだ。

準決勝は苦しかった。相手に高い守備ラインを敷かれ、攻撃する選手との距離が近くなったことで自由に動けず、得点を伸ばせないまま接戦となった。

1点リードで迎えた残り15秒の終了間際、相手のジャンプシュートを新垣凜之進が両手を伸ばして阻止した。同点のピンチを防いだところで試合終了のブザーが響き「めっ

ちゃうれしかった」と喜んだ。決勝は身長170センチの相手エースを封じる作戦が的中。多いときは3人がかりで挟み、外側に追いやってシュートを打ちづらくした。抜かれても仲間が足を動かしてカバーし、堅守を発揮。攻撃では前半3分までに5得点を挙げて波に乗り、そのまま勝利した。

決勝で8得点の池田俊介は「みんなが足を動かし、全員で戦ったことが優勝できた理由。日本一の実感はまだわからない」と9年ぶりの頂点に驚いた。好守を連発したGK大浦周也は「ボールをよく見て、瞬発力で止めることができ



た。最高です。次の目標は五輪に出てすごいシュートを止めたい」と声を弾ませた。(又吉健次)

全国優勝した神森クラブ(スポーツイベント提供)